

荒木光太郎文書解説目録

増補改訂版

追加分

2020年8月

名古屋大学大学院経済学研究科附属
国際経済政策研究センター情報資料室

荒木光太郎文書の追加にあたって

2020年8月17日

小堀 聡（経済学研究科）

今回目録の追加を行う荒木光太郎文書は、1954年に故・荒木光太郎（1894～1951）の遺族から寄贈された図書・文書資料類のうち、現時点で判明したものを一つの資料群にまとめ直したものである。2014年5月に911点の第1次公開を実施し、さらに18年5月の第2次公開により、計1,216点の資料群となった（ただし、欠番一つを含むため最終資料番号は1217）。また、「荒木家寄贈の可能性の高い資料」計170点も一覧化している。

第2次公開後も、資料室書架中からは、資料中の書込み等から荒木家からの寄贈と確定された資料や、寄贈の可能性が高い資料が発見された。そこでこの度、これらの資料を追加公開する。公開点数は、「荒木光太郎文書」5点、「荒木家旧蔵の可能性が高い資料」4点である。

公開に当たっては、新規公開部分を、第2次公開時の分類に即して新たにリスト化する方式をとった。このため、利用者は、第2次公開時に作成した『荒木光太郎文書解説目録—増補改訂版』も合わせて参照されたい¹。新規公開の資料番号は、「荒木光太郎文書」が1218～1222、「荒木家旧蔵の可能性が高い資料」が171～174である。なお、「荒木家旧蔵の可能性が高い資料」のうち、93および110～117の計9点については、書架中の他の資料との混同を防ぐため、配架場所を変更したので、今回改めて記載した。

「荒木光太郎文書」追加分5点のうち4点は、資料中の蔵書ラベルや書込みから判断している。残り1点である日本商工会議所（日商）発行の雑誌『商工会議所』1949年度分については、①荒木光太郎が日商専務理事に就任していたこと、②名大の所属教員と日商との関係が見い出されないこと、③他の所蔵機関が「公益財団法人後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館」しか確認されず、稀少性が高いことから、「荒木光太郎文書」と判断した。

以下では、解説目録への補足として、『商工会議所』を通じて荒木光太郎について得られた情報をまとめておきたい。1949年5月の創刊号に掲載された「編集後記」によると、『商工会議所』は従来の『日本商工会議所会報』に代えて発行するものであり、これは「新任の荒木専務理事を中心に事務局機構の整備もなり、来るべき新事態に対応する各段の態勢を整えつゝある」のに合わせたものであった。この創刊号には荒木光太郎も寄稿しており、各国重要都市の会議所との連絡強化を抱負に掲げている。なお荒木は、「マッカーサー司令部との連絡を緊密に保つこと」の重要性や、「当会議所としても既にマ司令部経済科学局長マ

¹ 牧野邦昭・小堀聡・山川幸恵・安福奈美『荒木光太郎文書解説目録—増補改訂版』名古屋大学大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センター情報資料室、2018年。

一カット少将を始めその幕僚の厚意によつて既に極めてなごやかなる連繫を開始しつゝあること」も記しており、荒木と GHQ/SCAP との密接な関係への期待が、専務理事就任の背景にあったのかもしれない²。その後荒木は、1949年7月号にも「外資導入の将来」なる論説を寄せている。

だが、翌1950年10月号には、「荒木光太郎氏辞任以来欠員であつた日商新専務理事に現東商専務理事吉阪俊蔵氏が九月七日の常議員会で決定就任」とあり、荒木が早くも専務理事を辞職していたことが分かる³。辞職の時期は確定できなかったが、1950年4月20日に横浜で開催された東日本貿易振興審議会第1回会議に、「荒木専務理事の代理として古田氏出席」とあるので、これよりは後であろう⁴。

そして、翌1951年9月に荒木が死去した後、1951年11月号には吉阪俊蔵による「前専務理事荒木光太郎博士の長逝を悼む」と題した挽歌4首が掲載された。

多摩川の岸ひろひろと見はるかす丘の家にして君逝きましぬ
わくら葉を枝に残してまづ散りし一葉なりけり秋たつあした
相つぎて人は逝くなりやがてまたゆくべきをのがさだめを思ふ
多摩川の岸の傾斜（なぞへ）の芝山のなだらかなりし君をこそ思へ

河畔のなだらかな芝山への比喻を通じて光太郎の温和な人柄を伝えており、貴重な資料といえよう⁵。

² 荒木光太郎「専務理事就任について」『商工会議所』1949年5月号、2-3頁。荒木とGHQ/SCAPとの関係については、前掲『荒木光太郎文書解説目録—増補改訂版』9頁、50-51頁。

³ 「日商日誌」『商工会議所』1950年10月号、54頁。

⁴ 「日商日誌」『商工会議所』1950年5月号、39頁。なお、古田は日商事務局員のようなのである。「編集後記」『商工会議所』1950年3月号、75頁。

⁵ 吉阪俊蔵「風月集」『商工会議所』1951年11月号、64-65頁。齋藤潤氏（荒木光太郎令孫）によると、荒木の自宅は多摩川畔にあり、その庭の芝山は多摩川に向かってなだらかな円弧を描くように下っていた。なお、現時点で確認できる『商工会議所』は、1953年6・7月号（通巻52号）までである。

荒木光太郎文書目録 追加分

資料 No.	箱 No.	封筒 No.	件名	作成者等	日付	備考
【10】財界団体						
(1)日本商工会議所関係						
1218	10	454	商工会議所	日本商工会議所	19490500 19500300	(1-6, 8-9,11)合冊 ※創刊号(5月号)と第3号(7月号)に荒木光太郎による記事あり
【13】中国、「満洲」経済関係						
(1)南満州鉄道関係						
1219	10	455	銀問題の概要	満鉄調査課	19310520	※見返しに金 バ 64
【25】その他						
1220	10	456	金輸出解禁問題の経過と其の影響(調査彙報;第1輯)	楠見一正	19290600	大阪商科大学経済研究所『調査彙報』※外れた表紙の見返しに金 188
1221	10	455	農業金融立法批判	野間海造	19360000	『法律時報』8巻6~9号抜刷 ※表紙に「謹呈 荒木先生」書込みあり
1222	10	455	愛知県毛織物工業に於ける金融	田杉競	19411200	『経済論叢』53巻6号抜刷 ※表紙に「謹呈 荒木教授殿」書込みあり

荒木家寄贈の可能性の高い資料一覧 修正・追加分

資料No.	件名	作成者等	請求記号/現所在	資料ID	日付	備考
【4】財界団体						
(2)日本商工会議所						
93	各都市に於ける商店街調査(九州及朝鮮地方)	日本商工会議所	荒木箱Pで保管	複本	19360800	昭和11年8月 小売商業振興委員会資料18
【6】論文抜刷						
110	カール・メンガー貨幣理論	荒木光太郎	荒木箱Pで保管	未登録	19281010	昭和3年10月10日 経済学論集第7巻第2号別刷 ※2部あり、うち1部に見返しラベル「金 パ 60」あり→「荒木光太郎文書」へ
111	中小商業者第2回金融調査に就て-中間報告-	荒木光太郎	荒木箱Pで保管	未登録	19371117	昭和12年11月17日 経済学論集第7巻第12号別刷 ※2部あり「荒木光太郎文書」No.730と同資料
112	山西省の工業発展-北支経済の研究	生島廣治郎	荒木箱Pで保管	未登録	19371025	昭和12年10月25日 神戸商業大学商業研究所叢書第5冊 ※「謹呈」書込みあり
113	立地理論に於ける全面性の要請—日本海経済と金融立地に関する瞥見	長尾義三	荒木箱Pで保管	未登録	19440700	昭和19年7月 高岡高等商業学校「研究論集」転換訣別記念号
114	フィッシャーの貨幣数量説	中村重夫	荒木箱Pで保管	未登録	19380415	昭和13年4月15日 東北帝国大学経済学会研究年報 経済学第8号抜刷
115	工業立地論の根本問題	山田文雄	荒木箱Pで保管	未登録	19370600	昭和12年6月 経済学論集(7巻7号)別刷
116	工業立地論現実化の諸問題	山田文雄	荒木箱Pで保管	未登録	19370700	昭和12年7月 経済学論集(7巻8号)別刷
117	日本中小工業とその質的規定	山中篤太郎	荒木箱Pで保管	未登録	19391200	昭和14年12月 東京商科大学「一橋論叢」第4巻第6号別刷 ※赤鉛筆傍線あり
【7】その他和書、和雑誌						
171	エコノミスト 18(15-22)	大阪毎日新聞社、東京日日新聞社	荒木箱Pで保管	未登録	19400000	※赤傍線と文字の書込みあり
172	経済学論集 第1巻第3号	東京帝国大学経済学部経済学会	荒木箱Pで保管	未登録	19230215	※赤傍線あり
173	支那国際収支論叢	南満洲鉄道株式会社調査部編	338.93 Mi37	10494465	19410500	※赤傍線と文字の書込みあり
174	正金週報 6(9-52)	横浜銀行調査部	荒木箱Pで保管	未登録	19310000	※赤傍線と文字の書込みあり